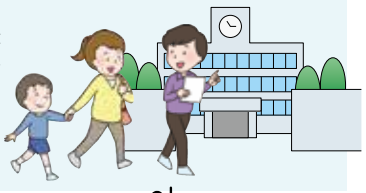
水害時の心得

安全な避難経路の確認

避難する場合の避難所までの経路(避難経路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しましょう。



避難所までの移動

風雨が激しくなる前に早めに避難しましょう。避難することが危険な場合は、自宅または頑丈な高い建物の上階へ避難しましょう。(垂直避難)
※車による避難は、渋滞に巻き込まれたり、水没する危険性があるので、原則、徒歩で避難しましょう。

被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、土のうや板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎましょう。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。※自宅内のトイレや風呂場、洗濯機の排水口に水のう(ビニール袋に水を入れたもの)を置くと逆流を防げます。

歩ける深さは約50㎝

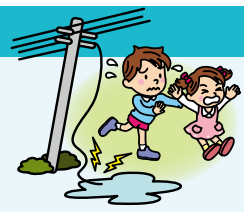
洪水の場合、歩ける深さは約50㎝まで。水の流れが速い場合、50cm以下でも危険。危ないと判断したら、無理をせず高い場所で救助を待ちましょう。

避難の呼びかけを

危機が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。
呼びかけがあった場合には速やかに近所に声を掛けながら避難しましょう。

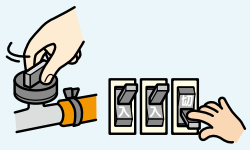
危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。
また、氾濫水には汚水が混ざっているので、さわらないように気をつけましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。
レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色の物がよいでしょう。スニーカーなど動きやすい靴をはきましょう。

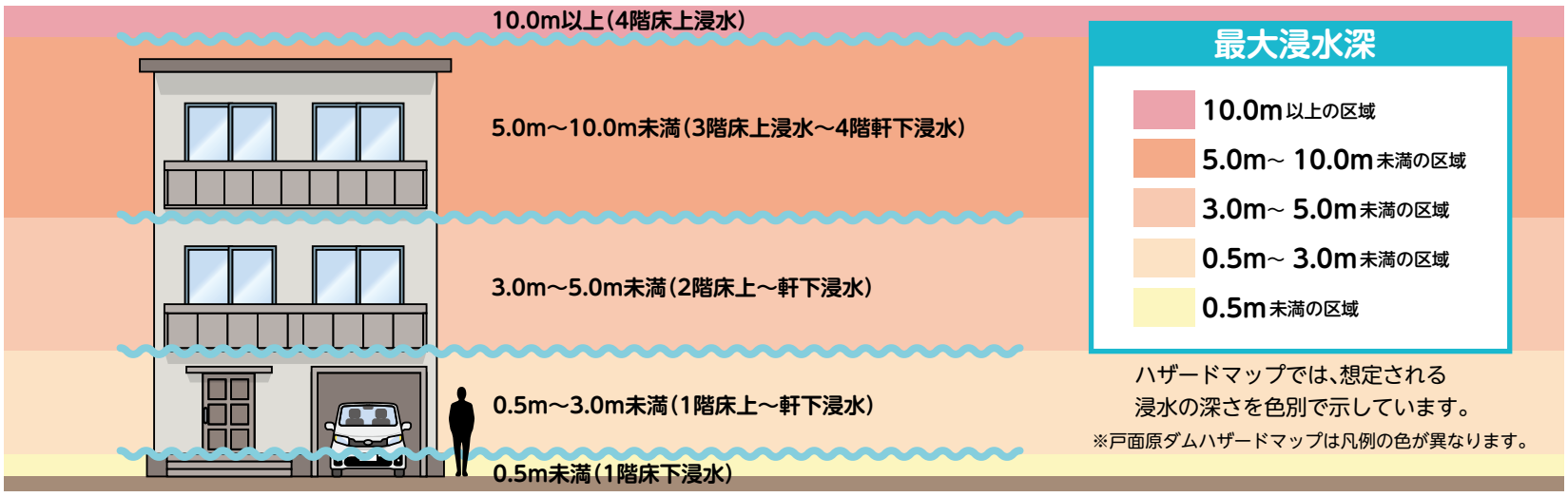
地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。

水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。

浸水の深さについて

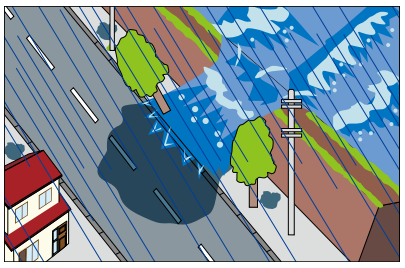


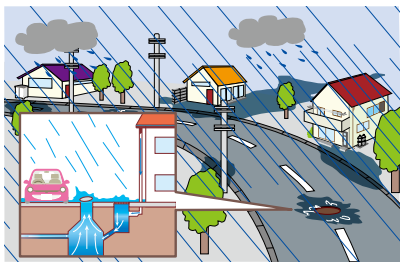
「外水氾濫」と「内水氾濫」

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、市街地の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示等を出すのが難しいため、注意が必要。